

研修 テーマ	英語で自分の思いや考えを伝える力を育む授業を目指して － 概念図を活用した言語活動の工夫を通して －
-----------	---

模擬授業Ⅱ（授業実践Ⅱ） 第3学年英語科学習指導案

指導月日 令和元年10月24日

所属校名 大崎市立古川中学校

氏名 寺田 達矢（T 1）

河野 正（T 2）

1 単元名 Unit5 Living with Robots-For or Against（東京書籍 NEW HORIZON English Course3）

2 単元の目標

(1) ロボットと人間の暮らしに興味を持ち、積極的に自分の意見を話そうとしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) ロボットと人間の暮らしについて自分の意見に理由を加えて話することができる。

【外国語表現の能力】

(3) 現在分詞や過去分詞の後置修飾を含む文、間接疑問文の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。

【言語や文化について知識・理解】

3 単元観

本単元は、新中学校学習指導要領外国語編「1 目標（4）話すこと〔発表〕」に示されている事項のうち「ウ社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする」に基づいている。本校の「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標にある「与えられたテーマについて、簡単な語句や文を用いて、話したり意見を伝えたりすることができる」に向けて本単元を位置付けている。したがって、本単元を通して、生徒がテーマについて自分の意見に理由を加えながら話して伝える力を身に付けることができる。

題材の内容はロボットについて紹介する新聞記事を読むことから始まり、光太とディーパの会話文では、日本で活躍するロボットが話題となっている。さらに、将来、ロボットと人間がどのように暮らしていくのか、または、ロボットが人間を助けてくれる面と機械であるがための不安な一面などについての議論へと話が展開していく。本題材を読むことによって、ロボットが人間に与えている影響について知り、ロボットと人間の暮らしについて考えを深めることができる。

言語材料として、現在分詞や過去分詞の後置修飾が扱われている。これは、一つの名詞に様々な情報を加えることができ、自分の意見を伝える際により説得力のある表現にすることができる。また、間接疑問文も扱われている。これは相手に状況を説明したり情報を伝えたりするときなどに役立つ表現である。

4 生徒の実態〔第3学年1組 男20名 女15名 計35名〕

とても明るい雰囲気ではペア活動やグループ活動に取り組むことができる。誰とでも分け隔てなく、お互いに教え合いながら学習を進めることができる。

実践授業Ⅰの後に、Unit5における実態調査を行った（図1）。7月に話すことのパフォーマンステスト（テーマ「フェアトレード商品」について3文程度で宣伝する）では、全体の80%の生徒が3文で

話すことができた。また、4文以上で話すことができた生徒は全体の53%であった。しかし、1、2文でしか話すことができなかった生徒も20%いた。

また、「フェアトレードにとっても興味が持てた」と回答した生徒の多くが4文以上で話すことができていた。しかし、「フェアトレードにまあまあ興味が持てた」と回答した生徒の多くに、あまり話すことができなかった生徒が含まれていることが分かった。

Unit3の単元では、自分の思いや考えを伝えやすくするように、メモやキーワード、絵などで話の筋道が立てられた概念図を活用した。テーマについて多くの英文を話すことができた生徒よりも、あまり話すことができなかった生徒の方が、「概念図がないと話すことができない」と思っていることが分かった。

本単元で扱われている「ロボットは私たちの生活に必要か」については、80%の生徒が「必要」と回答し、その理由として、「仕事の効率が上がる」や「人ができないことができる」などが挙げられた。一方で、「不必要」と回答した生徒もおり、「人々の仕事がなくなる」などの理由が挙げられた。

言語材料の既習事項として、現在分詞を用いた現在進行形と過去分詞を用いた受け身、疑問詞で始まる疑問文を学習している。レディネステストによると、半数以上の生徒が、現在分詞と過去分詞の使い分けができていることが分かった。また、疑問詞を含む疑問文では、特に、疑問詞＋名詞で始まる疑問文が定着していないことが分かった。

1 Unit3で行った話すことのパフォーマンステスト（「フェアトレード商品」について3文程度で宣伝する）の達成度

評価A：4文以上 16人 評価B：3文 8人 評価C：2文以下 6人

2 フェアトレードに興味を持てましたか。

	評価A	評価B	評価C
とても持てた	13人	3人	0人
まあまあ持てた	3人	5人	4人
持てなかった	0人	0人	2人

3 概念図を使って自分の思いや考えを話すことができましたか。

	評価A	評価B	評価C
なくても話せた	4人	0人	0人
まあまあ話せた	9人	3人	0人
ないと話せなかった	3人	5人	6人

4 ロボットは私たちの生活に必要ですか。

必要 24人 理由・仕事の効率が上がる 7人 ・役に立つ 5人 ・人ができないことができる 4人
・人が楽に暮らせる 4人 ・助けてくれる 4人

不必要 6人 理由・人々の仕事がなくなる 4人 ・人が楽をするようになる 1人 ・愛情がない 1人

5 (1) 現在分詞と過去分詞の知識理解（適語選択）

ア Saori is (study / studies / studying / studied) English now. 正答率70.6%

イ Computers are (use / uses / using / used) by many people. 正答率66.6%

(2) 疑問詞を含む疑問文の知識理解（並び替え）

ア (your favorite sports / is / what)? →What is your favorite sports? 正答率90.0%

イ (what / you / do / study)? →What do you study? 正答率80.3%

ウ (sports / what / play / you / do)? →What sports do you play? 正答率13.3%

図1 Unit5における実態調査

5 指導観

与えられたテーマについて、英語で自分の意見を表現することができるようになるためには、まずは、生徒の題材への関心を高めることが大切である。本単元で扱われている「ロボット」は、私たちの生活や未来に大きく関わっている社会的なテーマであり、「ロボットと人間の暮らし」はもはや現実になりつつある。現代の様々な場面で活躍しているロボットや近い未来に登場するであろうロボットを紹介している映像を見せていくことで生徒のテーマへの関心も高めていく。単元の学習を始める前に、「ロボットと人間が暮らすこと」について友人と話し合いをさせ、「自分たちの未来」について考えさせたい。そして、単元の学習の最後に、テーマについて、英語で自分の意見に理由を加えながら話すことにつなげていきたい。

また、単元を通して自分の意見を伝える機会を増やし、話すことに対する自信を高めていく。そこで、授業開始時のウォームアップで既習の単語や文法事項を復習し、それらを用いてペアで話す活動を行う。単元の学習の後半では、読んだ内容を自分の言葉で伝えるストーリーリテリングの活動を行う。その際には、授業で使用したピクチャーカードやキーワードなどを提示し、英語が苦手な生徒も、読んだ内容を自分の言葉で伝えることができるようにする。さらに、ペアやグループなどの学習形態を工夫するなどして、友人と助け合いながら活動を進めていく。英語が得意な生徒には、読んだ内容について、自分の意見を一言加えて話すなどの活動を設定し、生徒のレベルに合わせたスモールステップで進めていく。

テーマについて英語で自分の意見を伝えるときに「概念図がないと話すことができない」と思っている生徒がいることから、本単元を通して行う言語活動でも概念図を活用する。その際には、メモやキーワードの書き方など、概念図の作り方についても指導していく。

本単元の言語材料である現在分詞や過去分詞の後置修飾と間接疑問文は語順が複雑であり、特に、英語を苦手とする生徒の理解は難しいと考える。使用する場面や目的を明確にし、語句や基本表現は繰り返し口頭練習を通して定着させたい。

6 研修テーマとの関連

(1) 研修テーマ 英語で自分の思いや考えを伝える力を育む授業を目指して

－ 概念図を活用した言語活動の工夫を通して －

(2) 研修課題との関連

本研修で設定した授業像は、「社会的な話題について、自分の思いや考えを整理し、まとまりのある内容で伝えることができた実感できる授業」とした。Ⅰ期で見た課題を改善し、目指す授業像に迫るために、Ⅱ期では次の手立てを取り入れる。

① 自分の思いや考えを整理し、まとまりのある内容にするための手段の工夫

Ⅰ期では、自分の思いや考えを伝えやすくするように、メモやキーワード、絵などで話の筋道を立てられた概念図を活用してきた。これまでは、単元で扱われている内容の絵やキーワードを基に教師が概念図を作成してきたが、これらは教師が生徒に話させたいものを強く誘導してしまう。Ⅱ期では、テーマについて、日本語で十分に意見交流をさせた上で、概念図を生徒に作成させていく。

② 目的や場面を意識した言語活動の設定と学ぶ内容の明確化

単元を通してできるようになることを教師と生徒が見通すことができる「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標」を基にした「単元目標シート」の活用を行う。単元目標シートの活用により、単元の学習の中で行う言語活動に見通しを持つことや、次時に学ぶ英語表現も確認することができる。また、単元目標シートの裏面には、学習した内容を振り返ることができるように、成果や反省を記入することができるようにする。さらに、実際の言語の使用場面を工夫し、生徒が「楽しそう」「伝えてみたい」と思うようなテーマを設定して意欲を高めていきたい。

7 単元の指導と評価の計画（10時間扱い 本時7／10）

時間	題材	学習内容	評価規準	関	表	理	知
1	Starting Out	・ロボットを紹介する新聞記事を読み、ロボットについて情報を一言加えて話す。	・現在分詞「…している～」、過去分詞「…される[された]～」の用法を用いて、ロボットがしている動作などを話すことができる。	○			◎
1	Dialog	・「ロボットとの暮らし」をテーマに議論する前の光太とディーパの会話を読み、自分が知っている情報など	・間接疑問文「疑問詞（を含む語句）＋主語＋動詞」の用法を用いて、ロボットができることについて	○			◎

		について話す。	で知っていることを尋ねたり答えたりすることができる。				
1	Read and Think1	・ロボットとの共存に関する議論を読み、「ロボットの利点と問題点」について話す。	・ロボットとの共存についての議論を読み、ロボットの利点や問題点について2文程度で話すことができる。		○	◎	
1		・ロボットとの共存に関する英文を読んで、その内容をストーリーリテリングする。	・まとまりのある英文を読んで、その内容を自分の言葉で伝えることができる。	○	◎		
1	Read and Think2	・ロボットとの共存に関する英文を読んで、誰の意見に賛成か理由を加えながら話す。	・ロボットとの共存に関する英文を読んで、誰の意見に賛成か理由を加えながら2文程度で話すことができる。		○	◎	
1		・ロボットとの共存に関する英文を読んで、その内容をストーリーリテリングする	・まとまりのある英文を読んで、その内容を自分の言葉で伝えることができる。	○	◎		
1 本時		・「ロボットとの共存」について自分の意見に理由を加えながら話す。	・「ロボットとの共存」について、自分の意見に理由を加えながら話すことができる。	○	◎		
1	Activity1,2	・電車の優先席についての議論を聞いて、話し手の主張やその理由を聞き取る。 ・相手の意見を受けて自分の意見とその理由を述べながら議論する。	・電車の優先席についての議論を聞いて、話し手の主張やその理由を聞き取ることができる。 ・「紙の辞書か電子辞書のどちらを使うべきか」について自分の意見とその理由を述べながら議論することができる。		◎	○	
1	単元テスト	・話すことのパフォーマンステスト 「学校に導入してほしいロボットを校長先生にアピールする」	・「学校に導入してほしいロボットを校長先生にアピールする」について自分の意見に理由を加えて話すことができる。	○	◎		
1		・言語に関する知識理解を問うペーパーテストに取り組む。	・現在分詞と過去分詞の後置修飾の形・意味・用法などを理解している。				◎

8 本時の計画

(1) 目標

「ロボットとの共存」について、声の大きさや姿勢、表情に注意しながら話そうとしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

「ロボットとの共存」について、自分の意見に理由を加えながら話すことができる。

【外国語表現の能力】

(2) 本時の指導に当たって

本時は、「ロボットとの共存」というテーマについて、自分の意見に理由を加えながら話すことを目標とした。また、既存のロボットについて説明するなどの具体例を加えさせ、より説得力のある内容になるようにする。

本時の言語活動で使うことができる語句や基本的な表現は、授業開始時のウォームアップで行うペアで話す活動で復習したり、これまでに学習した教科書の内容を自分の言葉で伝えるストーリーリテリングで確認したりする。

また、自分の思いや考えを整理し、話の筋道を立てながら話すことができるように、メモやキーワードが書かれた概念図を活用する。本時の概念図は生徒に作成させる。その際には、テーマについて日本語で自分の考えをじっくりと整理させたり、ペアで十分な意見交流をさせたりした後に、概念図にメモやキーワードを書かせていく。また、概念図がなくても話すことができる生徒には、概念図にあまり頼らずに活動に取り組むように励ましていく。

発表の際には、数回のペア活動を取り入れることで生徒の英語を話す機会を確保し、スモールステップで自分の考えを伝えられるようにしていく。具体的には、ペア活動を通して、生徒同士で発表内容を共有したり、修正したりするようにし、自信を持って発表できることにつなげていく。また、発表のルールを示し、自分の意見を「ただ話す」のではなく、「相手意識を持って伝える姿勢」を大切にさせていく。

(3) 指導過程

段階 時間	学習活動	形態	○指導上の留意点 ●教師の支援	評価（方法） 準備物
導入 10	1 Greeting 教師と挨拶をし、簡単な質問に答える。 2 Warm-up 現在分詞の後置修飾を使って簡単な会話を行う。	一斉 ペア	○ 英語の学習に入りやすいように元気に挨拶をさせる。 ○ 簡単な質問をして、英語を学習する雰囲気を作る。 ○ 教師同士でやり方のモデルを見せたり、教師と生徒の対話を行ったりし、会話に使う表現を確認させる。 ○ペアで教え合いながら活動に取り組ませる。	ロボットのイラストカード
	※生徒に話させたい表現 A: What is the robot doing? B: This is the robot cleaning our classroom. How about yours? A: This is the robot teaching English.			
展開 35	3 Today's Goal 本時の目標を確認する。	一斉	○ 本時の目標を全員で確認させる。	
	「ロボットとの共存」について自分の意見に理由を加えて話すことができる。			
	4 Review (Story Retelling) 前時に学習した内容についてストーリーリテリングをする。	個人 ペア	○ ストーリーリテリングシートを見ながら、本時の言語活動で使える内容や表現を確認する。 ● 英語が苦手な生徒の近くに行き、使える表現などを個別に支援する。	ストーリーリテリングシート
	5 Demonstration 概念図を基にした教師のモデルスピーチを聞き、活動に使えるような表現を確認する。	一斉	○ T1とT2で「ロボットとの共存」についてのモデルスピーチを見せ、活動に使う表現を確認させる。モデルスピーチは数種類のものを見せ、繰り返し口頭練習させる。 ○ 本時の評価規準を知らせる。 ● 参考になる表現はメモをとらせ、活動に生かすように伝える。 ● 英語が苦手な生徒の近くへ行き、概念図の概要や語句の意味を個別に支援する。	概念図
	6 Preparation 本時のテーマ「ロボットとの共存」について自分の意見を整理する。	個人 ペア	○ テーマについて自分の意見を一度考えさせたあとに、ペアで意見を共有する。 ● 英語が得意な生徒には、概念図にあまり頼らずに活動するように伝える。また、英語が苦手な生徒はある程度の英文を考えさせ、その後にメモやキーワードを概念図に書かせる。	概念図
	7 Practice (ペア) 概念図を基にペアで話す練習をする。数回ペアを変えながら行う。	ペア	● 英語が苦手な生徒がいるペアの近くに行き、教師のモデルスピーチを確認させながら活動に取り組ませる。	概念図 (4)①② (観察)

	※生徒に話させたい表現例① I agree with Deepa. This is because robots can make our lives better. They help us with work. For example, this is the robot cleaning our classroom. It can clean it very fast. Do you think robots are useful? I think robots are useful.			概念図 (4)①② (観察)
	※生徒に話させたい表現例② I agree with Kota. Do you know this robot? This is the robot teaching English. It can teach math, too. But, robots may take people’s jobs away. People will have no work to do. So, I think robots are sometimes necessary.			
	8 Presentation①（ペア） 概念図を基にペアで発表する。 多くの友人とペアを組みながら数回発表する。	ペア	○ 発表の仕方(look up / eye contact / volume)を確認する。 ● ペアでお互いの発表内容を聞き合うだけではなく,アドバイスをし合いながら活動するように声掛けをする。 ○	
	評価 A： I agree with Deepa. This is because robots can make our lives better. They help us with work. For example, this is the robot cleaning our classroom. It can clean it very fast. Do you think robots are useful? I think robots are useful.			
	評価 B： I agree with Deepa. Robots make our lives better. This is the robot cleaning our classroom. Robots are useful.			
	評価 C： I agree... make lives ... useful.			
	9 Presentation②（個人） 全体の前で数名が発表する。	個人	る。 ○ 発表者の良かった点を全体で共有する。	概念図,ipad プロジェクター スクリーン
終結 5	10 Feedback 本時の取組の成果や反省を単元目標シートに記入する。	一斉	○ 本時の学習目標を達成することができたか確認させる。 ● 英語が苦手な生徒には個別に声を掛け,本時で学習したことを振り返らせる。	単元目標シート
	11 Greeting 教師と挨拶をする。	一斉	○ 本時の取組を褒め,元気よく教師と挨拶をする。	

(4) 本時の評価

	評価A	評価B	評価C
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	声の大きさや姿勢, 表情に注意し, 聞き手の理解を確かめながら話している。	声の大きさや姿勢, 表情に注意しながら話している。	声が小さかった。アイコンタクト等もほとんどなかった。
外国語表現の能力	「ロボットとの共存」について, 自分の意見に理由や具体例を加えながら分かりやすく話すことができる。	「ロボットとの共存」について, 自分の意見に理由を加えながら話すことができる。	「ロボットとの共存」について, 自分の意見や理由を少しだけ話すことができた。

(5) 準備物等

生徒：教科書，単元目標シート

教師：教科書，ロボットのイラストカード，ストーリーリテリングシート，概念図，ipad，スクリーン，プロジェクター

Unit5 Living with Robots-For or Against(P70~79) 単元目標シート

単元到達目標：「学校に導入してほしいロボットを校長先生にアピールする」について自分の意見に理由を加えて話すことができる。（話すこと）

時間	題材	学習内容	できるようになること	到達自己評価
1	Starting Out	・ロボットを紹介する新聞記事を読み、ロボットについて情報を一言加えて話す。	・現在分詞 (...ing 形)「・・・している～」、過去分詞「・・・される [された] ～」の用法を用いて、ロボットがしている動作などを話すことができる。	A・B・C
1	Dialog	・「ロボットとの暮らし」をテーマに議論する前の光太とディーパの会話とを読み、自分が知っている情報などについて話す。	・間接疑問文「疑問詞（を含む語句）＋主語＋動詞」の用法を用いて、ロボットができることについて知っていることを尋ねたり答えたりすることができる。	A・B・C
2	Read and Think1	・ロボットとの共存に関する議論を読み、「ロボットの利点と問題点」について話す。 ・ロボットとの共存に関する英文を読んで、その内容をストーリーリテリングする。	・ロボットとの共存に関する議論を読み、ロボットの利点や問題点について2文程度で話すことができる。 ・まとまりのある英文を読んで、その内容を自分の言葉で伝えることができる。	A・B・C A・B・C
3	Read and Think2	・ロボットとの共存に関する英文を読んで、誰の意見に賛成か理由を加えながら話す。 ・ロボットとの共存に関する英文を読んで、その内容をストーリーリテリングする。 ・「ロボットとの共存」について自分の意見に理由を加えながら話す。	・ロボットとの共存に関する英文を読んで、誰の意見に賛成か理由を加えながら2文程度で話すことができる。 ・まとまりのある英文を読んで、その内容を自分の言葉で伝えることができる。 ・「ロボットとの共存」について自分の意見に理由を加えながら4文程度で話すことができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
1	Activity1,2	・電車の優先席についての議論を聞いて、話し手の主張やその理由を聞き取る。 ・相手の意見を受けて自分の意見とその理由を述べながら議論することができる。	・電車の優先席についての議論を聞いて、話し手の主張やその理由を聞き取ることができる。 ・「紙の辞書か電子辞書のどちらを使うべきか」について自分の意見とその理由を述べながら議論することができる。	A・B・C A・B・C
2	Task 活動	・Performance test ・ペーパーテスト（語彙・文法）	・「学校に導入してほしいロボットを校長先生にアピールする」について自分の意見に理由を加えて話すことができる。（話すこと） ・現在分詞と過去分詞の後置修飾の形・意味・用法などについて理解している。	A・B・C A・B・C

A：自力で目標を達成することができた。 B：助けやヒントをもらって目標を達成することができた。 C：目標は達成できなかったが、自分なりに頑張った。

大崎市立古川中学校 英語科 第3学年 学習到達目標			
聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと
○明瞭な音声や自然な速度で話された英語を聞いて、話の概要や要点を聞き取ることができる。	○まとまりのある英文を、強弱を付けたり、読む速さを変えたりするなどして、感情豊かに音読することができる。 ○まとまりのある英文を読んで、大まかな内容を捉えたり、書き手が伝えたい情報を読み取ったりすることができる。	○与えられたテーマについて、簡単な語句や文を用いて、話したり意見を伝えたりすることができる。 ○与えられたテーマについて、考えたことや感じたことに理由などを加えながら話すことができる。	○与えられたテーマについて、自分の考えや思いに理由などを加えながら正しく書くことができる。 ○文章のまとまりを意識し、話の筋道を立てながら、自分の意見を正しく書くことができる。

自己評価カード

時間	日付	校時	題材	学習内容	意欲関心	成果や課題	検印等
記入例	8/31	1	Starting Out	・ロボットを紹介する新聞記事を読み、ロボットについて情報を一言加えて話す。	A/B/C	現在分詞の後置修飾を使ってロボットを紹介することができた。友人の考えもとても参考になった。	
1			Starting Out	・ロボットを紹介する新聞記事を読み、ロボットについて情報を一言加えて話す。			
2			Dialog	・「ロボットとの暮らし」をテーマに議論する前の光太とディーバの会話とを読み、自分が知っている情報などについて話す。			
3			Read and Think1	・ロボットとの共存に関する議論を読み、「ロボットの利点と問題点」について話す。			
4			Read and Think1	・ロボットとの共存に関する英文を読んで、その内容をストーリーリテリングする。			
5			Read and Think2	・ロボットとの共存に関する英文を読んで、誰の意見に賛成か理由を加えながら話す。			
6			Read and Think2	・ロボットとの共存に関する英文を読んで、その内容をストーリーリテリングする。			
7			Read and Think2	・「ロボットとの共存」について自分の意見に理由を加えながら話す。			
8			Activity1,2	・電車の優先席についての議論を聞いて、話し手の主張やその理由を聞き取る。 ・相手の意見を受けて自分の意見とその理由を述べながら議論することができる。			
9			Task 活動	・ Performance test			
10			Task 活動	・ ペーパーテスト（語彙・文法）			

Unit5 の学習を振り返って

立場

理由や意見

具体例

さらに一言

Who do you agree with?	Deepa			
	Saki			

Unit5 Picture card	Unit5 Picture card	Unit5 Picture card	Unit5 Picture card
our lives better / put together / quickly and precisely / dangerous	efficient / people's job / worried about	necessary / elderly people / help	dangerous / out of control / machines

Memo
